

研 究 分 野	資源評価	部名	漁業開発部
研 究 課 題 名	東通原子力発電所温排水影響調査 海洋生物調査		
予 算 区 分	水産業企画調査費 （広報安全等対策交付金10／10）		
試験研究実施年度・研究期間	H.15 ～ H.27		
担 当	吉田 雅範		
協 力 ・ 分 担 関 係	水産振興課		
〈目的〉 東北電力東通原子力発電所の温排水が、施設前面海域及び周辺海域に与える影響を把握する。なお、本調査は東通原子力発電所温排水影響調査実施計画に基づく調査項目のうち定置網水温及び主要魚種漁獲動向（サケ）について実施した。 〈試験研究方法〉 1 定置網水温：サケ定置網に設置（3地区）して日平均水温を測定した。 2 主要魚種漁獲動向（サケ） (1) サケ沿岸漁獲変動：平成17年漁期のサケ沿岸漁獲尾数を集計した。 (2) サケ標識放流：サケ親魚の標識放流は、白糠漁港前沖にて平成17年11月11日に29尾（全てデータログ）、12月13日に28尾（26尾はデータログ、2尾はディスクタグ）の合計57尾を放流した。 〈結果の概要・要約〉 1 定置網水温 サケ定置網海域日平均水温は、9月が19.2～21.8℃（昨年19.8～21.3℃）、10月が17.4～19.5℃（昨年16.8～20.2℃）、11月が14.1～17.5℃（昨年14.5～16.9℃）、12月が11.2～14.2℃（昨年10.3～14.6℃）、1月が8.1～11.3℃（昨年9.6～10.9℃）であった。 2 主要魚種漁獲動向（サケ） (1) サケ沿岸漁獲変動 平成17年漁期のサケ沿岸漁獲尾数は青森県全域で125.9万尾（昨年比56.2%）、そのうち太平洋側が73.4万尾（昨年比48.9%）であった。また、白糠漁協と小田野沢漁協の合計値は16.2万尾（昨年比85.1%）であった（図1）。 (2) サケ標識放流 再捕状況は、11月11日放流群が5尾、12月13日放流群が2尾の合計7尾であり（表1）、放流から再捕までの生息水温、水深、時間データを得た。水温は3.6～17.2℃、水深は0～227.0mの範囲であった。			

〈主要成果の具体的なデータ〉

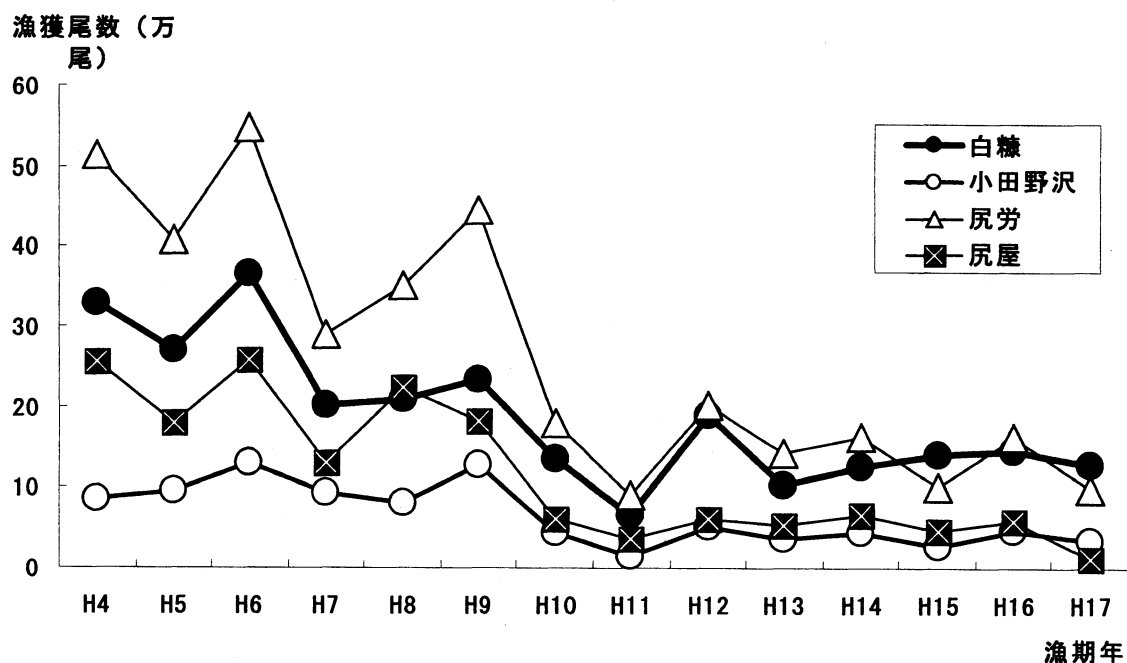


図1 東通村太平洋側各漁協のサケ沿岸漁獲尾数の推移

表1 標識放流魚の再捕結果

No.	放流月日	再捕月日	再捕場所	再捕漁法	標識種類
1	11月11日	11月15日	老部川	やな	口ガー
2	11月11日	11月16日	老部川	やな	口ガー
3	11月11日	11月15日	老部川	やな	口ガー
4	11月11日	11月13日	老部川	やな	口ガー
5	11月11日	11月19日	尻労	刺網	口ガー
6	12月13日	12月14日	尻労	定置	口ガー
7	12月13日	12月14日	白糠	定置	口ガー

〈今後の問題点〉

なし

〈次年度の具体的計画〉

今年度と同じ

〈結果の発表・活用状況等〉

青森県（2005）東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書平成17年度（第3四半期）.